

自らもガンと闘いながら、若年性アルツハイマーの妻を十二年間介護。現在までに一千三百回にも及ぶ講演会を行ってきた。また、NPO 萩みんなの図書館理事長などまちづくりにも精力的に活動中。講演活動で伝えておられること、学校現場への熱い思いをお伺いした。

※これまで数多くの講演活動をされておられますが、どんなことを伝えておられるのでしょうか。

青少年教育、婦人会、高齢者教室と幅広い方を対象として講演活動をしている。病院の看護師や介護士を対象とした講演も多い。専門的な勉強をしたわけではないが、十二年間にわたり一日二十四時間、一年三百六十五日妻の介護に関わって体験したことや思いを教育と絡ませて話している。介護にもいろいろな形があるが、若年性アルツハイマーの介護は、「いかに楽に死を迎えさせてあげられるか」だと思う。今後ますます患者数が増加するであろうという状況であるが、これは高齢者だけの問題でなく、子どもの教育と密接につながった問題であると考ええる。介護の原点である「つらくても我慢する」「相手を（笑顔で）受け入れる」「人間を育てるのは、主に家庭の役割だと思っている。子どもたちの心を育てるのは家庭教育である。特に「つ」のつく

まで（一つ〜九つ）に、優しさ三、厳しさ七で育てることで子どもは心配りのできる感性をもった人間に育つ。批判もあるかもしれないし、湖に石を投げるくらいの波紋ぐらいしか起こせないかもしれないが、続けていきたいと思っている。

※これまでの人生の中での転機はいつでしょう。

探訪シリーズ **この人 この歩み**
熱い思いを伝えたい
 元萩市教育長 **陽 信 孝 さん**



初任の学校で、多くの事を子どもから学んだ。一番は子どもは悪くない、ということだ。悪いのは、子どもを取り巻く環境（親、先生や地域、マスコミ）である。そのことを心に置いていつも教育に当たってきた。

もう一つは、妻との出会いである。遅くなって帰宅した時、雪の中で自分の帰りを待ち雪だるまのようにになった妻を見て、教育長職を辞める決意をした。
 ※現役での先生や管理職に望むことはどんなことでしょうか。
 先生という職業は、学校から離れてもずっと先生でないといけない。常に

神経をすり減らしながら生きている。大変で責任の大きい職業である。

若い先生方にはまず、子どもを厳しく叱ることができるようになって欲しい。そして、厳しく叱った時には親に連絡を取ること。また、歴史を勉強すること。特に松陰先生を基盤とした教育のこと、明治維新を支えた幕末の科学技術について学んで欲しい。歴史を語る人になって欲しい。

学校は、校長先生がしっかりしないとイケない。全責任をもつという腹を決めておくこと。校長は管理するだけでなく、先生方の家庭の事情までも心配りができる人間であって欲しい。「職員室をオアシスにする」ことも管理職の仕事。暗い職場は子どもにも悪い影響を与える。いい妥協と悪い妥協の仕分けをきちっとして先生方の考えをまとめ、一体感をつくる。学校がそんな組織だったらすばらしい教育ができる。

長時間にわたって熱弁をふるわれた陽先生から、まず自分自身を照らし、そして自分の周りを自分の力で照らしておられる力強さを感じました。まさに「一灯照隅」のお姿です。今後も健康でご活躍されることを心から祈念いたします。
 (川上小 中山一弘)

本部だより

平成二十五年度、新会員四十七名を迎え計三百十四名からなる小学校長会の総会が、去る五月十日に開催された。役員改選が行われ、新役員の説明による活動方針及び事業計画、予算、各専門部の提案等が承認され、本年度の諸事業がスタートした。

なかでも、新研究主題「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に基づき、「志をもち、未来に向かって共にたくましく生き抜く実現力のある人間の育成」を副主題として研究に努めるとともに、平成二十七年に本県で開催される全国連合小学校長会研究協議会山口大会に向けての準備を組織的に進めることが大きな課題である。大会を二年後に控えた本年度は、実行委員会等において副主題や研究領域、研究課題等を検討して、来年一月の全連小大会打合せ会で大会概要を報告することになる。

また、志をもち夢に向かってたくましく生き抜く子どもたちを育てるためには、校長自身が志をもち元気で主体的に学校運営を行っていくことが大切である。今後、各支部小学校長会との連携を一層密にしながら、校長先生方の元気を支援したり結束力を高めたりして、全国大会につなげていきたい。